

令和3年度宮崎県特別支援教育研究連合知的障がい教育研究部会

－第3回理事会－

議事録

日時：令和4年2月4日(金)

午後：2時～午後4時

会場：みなみのかぜ支援学校

司会：小園T

I 開会行事

(1) 会長挨拶 みなみのかぜ支援学校 川越 俊彦 校長

みなさんこんにちは。連日、新型コロナウイルスのオミクロン株の出現により、各学校その対応に苦慮されているのではないかなと思います。まん延防止等重点措置法が2月13日までとされていますが、国の方で、その延長も含めて対応されているようです。しばらく収束には、まだ時間がかかりそうですけれども、子どもたちの健康をしっかりと守りつつ、また教育も保障しながら各学校対応されていることと思います。本当にご苦労様です。前回の理事会の時にも触れましたが、令和3年1月に中央教育審議会の答申がありました。令和の日本型学校教育の構築を目指して、全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと共同的学びの実現という答申が出されました。大きな柱として個別最適な学びというのが示されています。この観点、今まで特別支援教育の中で、重要視されてきました、個に応じた指導の一層の重視にあたるのではないかなと思います。また、その中で触れられているのが、これまで以上に子どもの成長やつまずき、悩みなどの理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえて、きめ細かく指導支援することや子どもが自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することが出来るように促していくことが求められる。また、集団の中で子が埋没してしまうことのないよう、一人一人の良い点や可能性を生かすことで、異なる考え方が組み合わせり、よりよい学びを生み出す。このようなことが書かれております。今後、学校教育をすすめていくにあっても、大事な視点ではないかなと思いますし、個に応じたきめ細かな指導、そして支援・連携が益々、求められていると思います。そういった意味において、会員の資質向上を目指す知的部会の役割はとても大きいのではないかと考えております。今日は、今年度の反省とそれと来年度の研究大会の在り方について、この後審議していただきますけれども、どうぞ忌憚のないご意見をいただきまして、本会が発展していきますように、よろしくお願い致します。

(2) 本日の日程、配付資料の確認

理事会資料

追加訂正文の予算関係の資料

来年度の知的部会大会資料

県特研連の一次案内資料

II 第3回理事会

(1) 令和3年度知的部会事業報告(P1, 2)

第11回宮崎県特別支援教育研究連合 知的障がい教育研究部会 研究大会予算(案)について
日向ひまわり支援学校 佐藤先生
機器類に関しては、ひまわり支援学校で今後使っていくものなので、予算は使っていない。
その他、資料参照

(2) 令和3年度知的部会収支報告(P3)

資料参照

(3) 令和3年度九特連収支報告(P4)

監査の空欄の部分を埋めたものについては、3月中旬頃に報告する。
その他資料参照

(4) 令和4年度知的部会事業計画案(P6)

訂正、11月に第2回理事会を実施。2月4日は、第2回から第3回理事会に訂正。
九特連の沖縄大会については、集合型で実施するのか、オンラインで実施するのか連絡がきていないので不明。感染状況を踏まえて近々判断されるので、分かり次第報告する。
〈意見〉宮崎東小学校 富永先生
沖縄大会の小中学校の発表者は、日向地区が担当になる。自立活動で発表の準備中。

(5) 令和4年度知的部会収支予算案(P8)

資料参照

〈意見〉会長 川越 俊彦校長
集合型で開催する場合の予算を立てている。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響で集合型で開催できなかった場合、繰越金が増えていくことが想定される。その時は、予算の組み立てについて検討が必要になる。次年度の新型コロナウイルス感染症の状況を考えながら、来年度の第1回理事会の時に、予算の組方について提案検討していきたい。

(6) 令和4年度九特連収支予算案(P9)

資料参照

〈意見〉宮崎大学教育学部附属小学校 瀬川 T
九特連の沖縄大会への補助費が0円で計算しているが、もし大会が集合型で開催されるとなった場合は、補助があるということによかったか。
→令和10年度に行われる宮崎大会に向けて、積み立てているお金である。

(7) 令和4年度理事選出について(P10～) 小園 T

来年度、理事を決める際に文書とFAX送信票が必要になるので、これらの用紙については、今年度中に改めて送付する。来年度の理事の方に引き継いで、事務局への提出をお願いしたい。
令和4年5月13日が提出締め切り期限(FAX送信用紙に記入がなかった)。理事が決まらなかった場合、今年度理事をされている先生が事務局への連絡をお願いしたい。

〈意見〉三股中学校 小野 T

各地区の事務局の先生が、小中特研の理事に参加している。現在参加している理事の先生は、5月11日までに宮崎大学附属小に、13日までに、事務局に提出をお願いしたい。

〈意見〉延岡しろやま支援学校 水野 T

FAX送信票の「下記の令和3年度理事指名と～」の箇所を「下記の令和4年度理事指名と～」に書き換えでは？

→訂正をお願いしたい。

III 第2回知的部会研究大会実行委員

(1) 大会実施計画案 都城きりしま支援学校 片平 慎二先生

資料参照〈令和4年度12回知的障がい教育研究部会研究大会内容(概要)〉

実施方法について、特別支援学校と小・中学校をオンラインで繋ぎ、リモートで行う。

しかし、午前中に行う児湯るぴなす支援学校の実施方法(現段階では集合型で開催予定)と関係してくるので、打ち合わせが必要になる。

第2回理事会で、各校のオンライン状況について調べたところ、延岡しろやま支援学校は最大165名ほど収容可能と返答をいただいた。しかし、それだけの人数が集まると延岡しろやま支援学校の負担が大きくなるのではないかと危惧している。リモートにすれば、小中学校の先生方の移動による負担と開始時刻を早めることができるという利点がある。この場でリモートと集合型開催、どちらがいいのか検討していただきたい。

小園 t

資料参照〈令和4年度 第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会のご案内(第1次案内)〉

午前中の部を児湯るぴなす支援学校がオンライン配信会場となり、午後の部の分科会を都城きりしま支援学校で実施する。

資料参照〈令和4年度 第24回宮崎県特別支援教育研究連合研究大会参加者イメージ〉

1～7までの各支援学校を会場として、そこに、各地区の小中学校の先生方に集まっていただいて、各支援学校と児湯るぴなす支援学校をつないで、研究大会を視聴するというのが、県特研連の大会イメージになっている。午後の部も同様の流れで、集合型で都城きりしま支援学校とつなぐ。午前中の大会の開催の在り方については、児湯るぴなす支援学校がだしているのは、各支援学校会場に先生方が集まるという形になっている。都城きりしま支援学校は、集まる状況は難しいと判断し、各支援学校と小中学校をつなぐという案を提案していただいている。県特研連の事務局と話し合いをしているが、双方で考え方が違うという状況になっている。例えば、午前中の部に参加できない小中学校の先生方がいると思う。その場合、午後の部には参加できる場合、各支援学校と小中学校とつなぐことはできる。その他に、例えば午前中、支援学校にきてくださった小中学校の先生方には、そこで都城きりしま支援学校とつないでリモートで受けることが可能である。

〈意見〉延岡しろやま支援学校 水野 T

今年度の夏にエリア部会を実施した。そのときに165名収容することができたので、この人数を出した。なので、研究大会を実施することは可能である。延岡西臼杵地区は、エリア部会内での移動にかなり時間がかかる。午前中の研究大会は、延岡しろやまにこられた小・中学校の先生方には、そのまま午後の知的部会も本校で参加してもらうことは可能である。それぞれの先生方の都合により決めることが出来る選択制はどうか。午前中の研究大会は、県北であれば延岡しろやま支援

学校で参加して、午後は、それぞれの学校、あるいは残って知的部会大会に参加するというようないくつかの選択ができるようにするのはどうだろうか。

〈返答〉都城きりしま支援学校 片平 T

児湯るぴなす支援学校がよければ、そのまま残っておいてもいいと思う。水野先生がおっしゃったようにいくつか選択肢があるといいと思う。

〈意見〉日向ひまわり支援学校 飯干 T

片平先生が提案された方法が適切であると思う。先程、水野先生からもあったように、日向地区も移動の負担があり、感染症対策をしなければならない、それでいての集合型の開催となったときに、受け入れるだけのキャパがなく無理がある。また、本校職員数も増えてきているので、小・中学校の先生も受け入れるキャパがない。日向ひまわり支援学校で視聴できたとしても、午後の部からの移動(情緒部会が多い)が難しい。オンデマンドで視聴する等、選択肢を広げていく方がよい。

〈意見〉三股中学校 小野 T

情緒につきましては、オンライン形式を考えている。ただし、県内の情緒だけでも100校ほどあるので、やり方自体は検討中である。

午前中、県特研連の大会に参加する方は、各支援学校で視聴、午後の部に関しては、そのまま残る方もいれば、各学校に戻って情緒部会に参加する方、もしくは、午前中は通常勤務しており、午後から知的部会に参加する方、もしくは、オンデマンドで後日視聴する方、そのような流れでよろしかったでしょうか。

→はい。このような流れの方がスムーズではと事務局は考えている。

〈返答〉都城きりしま支援学校 片平 T

支援学校のオンライン状況がまちまちである。延岡しろやま支援学校は160名程度収容可能という学校もあれば、小林こすもす支援学校のように40名という学校もある。各支援学校に負担がいく。また、入りきらなかった先生方を他のエリアの学校で視聴していただくとなった場合、みやざき中央、日南くろしお支援学校は他の会場をおさえようかという話が出ていた。そうであれば、オンライン形式で、平等性を保つことができ、先生方の負担も少なくなるのでは、と校内で話し合った。以上のことを、児湯るぴなす支援学校にうまく伝えることが出来ず、混乱を招いてしまった。

この会を進めるにあたって、一番いい方法、先生方の負担が少ない方を選択できるといいのかなと考えている。

〈意見〉宮崎大学教育学部附属小学校 瀬川 T

できるだけ先に質問を受け付けておいて、8割オンデマンドで視聴するというほうがいいのでは？

〈意見〉日向ひまわり支援学校 飯干 T

各学校に集客する形になった場合、各学校の負担になる。できる限り、都城きりしま支援学校がやりやすいようにサポートすると同時に、成功させるために集客だけにこだわらなくてもいいのでは？予算をうまく使って、オンライン、オンデマンドを活用して、たくさんの小・中学校の先生が参加できる研修会にしていきたい。各校で集客する形だと業務が増える。いろんな連絡調整が一緒に考えていけるといいなと思う。

〈意見〉新田小学校 長友 T

初めてのオンライン配信を行って、ギリギリまで質問が来てかなりバタバタした。ただ、発表出来てよかった。その後、エリア部会で発表する予定だったが、各校つないで実施するはずが、感染者が増えて中止になってしまった。準備してきたものが発表できなかつたことは、がっかりした。オンラインでも発表出来た方が良かったので、個人的な意見ではあるが、きりしま支援学校がやりやすい方法で実施できたらと思う。

小園 T

この会が終わった後も、研究大会についての意見を受け付けている。都城きりしま支援学校と各学校と協力しながら、成功できるように進めていきたいと思っている。そして、来年度の理事会のときに、協議出来たらと考えている。

(2) 係分担等について

IV その他

VI 閉会行事

(1) 会長挨拶 みなみのかぜ支援学校 川越 俊彦 校長

先生方、長時間にわたりありがとうございました。熱心なご議論とともに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございます。学びをとめないということをベースにしながら、特に小・中学校の先生方の負担のないように、例えば選択制をとるという意見が出ていましたけれども、実りある研究大会に、できればいいなと思っているところです。できるだけシンプルに運営ができるように、工夫しながら、また先生方のご意見・知恵をいただきながら、すすめていければなと思っています。具体的な課題を挙げますと、例えば、集めるとしたときの会場のキャパの問題、感染症対策、オンラインにつなぐとしたときに、回線の状況、あるいは、不具合が生じた時の対応、ライブ配信、あるいは申し込みの際のQRコードの活用、そして昼食会場や昼食の申し込みの問題、移動手段、駐車場の問題、午前の部、午後の部のそれぞれの資料の印刷、配布の問題、いろいろな問題があがってくると思います。一つ一つ知恵を出し合いながら、解決していったらいいかなと思っています。来年度の1回目の理事会の折に、具体的な懸案事項等について、ご意見をいただきながら、スムーズな大会運営ができればいいかなと思っていますので、先生方気になることありましたら、事務局、または都城きりしま支援学校の片平先生にご意見をいただければと思います。長時間にわたり貴重なご意見を出していただきありがとうございました。